

平成 30 年

6 月号

No.584

法音

今月の
法話

心に波は立っていませんか

日蓮宗

法音寺





知恩報恩

感謝と親切

今日一日、
 受けた恩に感謝しましょう。
 恩を忘れぬ人は信頼されます。
 今日一日、
 人に親切にしましょう。
 人が喜び、自分もうれしい。
 仏の教えは
 知恩報恩の人となることです。

月刊・法音

平成三十年六月号「584」

■目次■

【信仰の指針】平安 へいあん 心に波は立っていませんか

1

【朝のこない夜はない】

法華經受持の功徳を我が身に味わいましょう

山首 鈴木正修

2

御開山会が厳修されます

15

有縁の支院・布教所に、ご自由に参詣ください

16

御開山会のお知らせ

18

特別企画・聖の教え(完)

20

とこのはの記 本当のお参り

36

のりのね体験 いま・昔

40

のりのとも 西に東に 転法輪・支院だより

44

法音寺からのご案内

73

福祉に生きる 昭徳会・特集 第10回 福祉実践発表会

74

福祉のひろば 児童養護施設の現場から「親子関係を再び取り戻すために」

82

日本福祉大学 追悼展示「初代学園長 鈴木宗音先生」開催

84

賛助員ご芳名

86

幸せの種まき／編集後記

88

連載まんが・ひまわり・65 おすそわけ

89

書籍のご紹介

89

法音寺の社会福祉・教育事業

89

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま 書

表紙写真・しょうぶ

掲載写真

表紙・信仰の指針・3

15頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

信仰の指針

へい
あん

平安
心に波は立っていませんか

日教五



うの花



朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

法華經受持の功德を

我が身に味わいませう

昔、今の皇后陛下が皇太子殿下を御懐妊されたとき、御開山上人のもとに関西の信者さんが「皇后陛下の胎教のお徳願い」として、当時のお金で10万円程持ってこられたそうです。かなりの大金です。その時に御開山上人は、日本のこと、皇室のことを心から思ってくれる人が法音寺の信者さんの中におられたことをとても喜ばれたそうです。自分のこと、自分の家族のことは大事ですが、日本全体の幸せを祈る。世界の人々の幸せを祈る。

これはとても大切な心掛けだと思います。



法華経と聖徳太子

日本国の安寧をひたすら祈られたのが日蓮聖人です。日蓮聖人と言えば法華経、法華経と言えば日蓮聖人です。世間では日本の法華経は日蓮聖人から始まったと思っておられる方も多々あります。確かにお題目は日蓮聖人からですが、法華経は違います。日蓮聖人も「日本はもともと大乘の国である。殊に法華経の国である」とおっしゃっています。

日本で最初に法華経を広められたのは聖徳太子です。

聖徳太子の時代、中国は隋という国でした。隋には天台大師智顛という偉いお坊さんがいました。この方は南北朝から隋の時代にかけて活躍し、小釈迦とも言われました。

この方が、「お釈迦さまの一代の教えの中で法華経が一番である」と説かれたのです。それによって隋の時代には



諸経の王・法華経を信仰する人がたくさんいました。

隋の第二代皇帝・煬帝は熱心に法華経を信仰し、天台大師を尊崇していました。天台大師から菩薩戒を受けて「總持」という法名を授かり、天台大師には「智者」という特別な称号を下賜しました。これが後世、「智者大師」という大師号のもとになります。

天台大師が遷化された後、煬帝は天台大師の瑞夢を見ました。煬帝は感激し、天台大師の御報恩供養のために、天台山国清寺という壮麗な寺院を建立しました。その開堂のときには国中から高僧を集めて大法会を催しました。

このように、隋の時代には法華経が国の隅々まで広まっています。当時、聖徳太子は遣隋使を送っていました。遣隋使や学生、学僧達が隋に送られ、帰ってくると「隋という国では、法華経という教えが非常に広まっています。国の隅々までみんな法華経を唱え、信仰をしています」と



報告したのです。そこで聖徳太子は「一度、法華経という
經典を私のところへ持って来なさい」と言われ、聖徳太子
自ら法華経を読まれたのです。そして、すぐに「これはす
ばらしい」と感銘を受け、自ら注釈書を作られました。今
でも原本が宮内庁に残っているそうです。

その注釈書は「法華義疏」と言います。序説に「夫れ妙
法蓮華経は蓋し是れ惣じて万善を取りて、合して一因とな
すの豊田、七百の近寿転じて長遠となるの神薬なり。——中
略——是を以て如来即ち万徳の嚴軀を動かし、真金の妙口を
開き、広く万善同帰の理を明して、莫二の大果を得しめぬ」
と書かれています。「あらゆる善きものは法華経に帰着す
る。法華経こそは最高の經典だ」と言われたのです。聖徳
太子はこの法華経をもとに有名な十七条の憲法を作られま
した。

十七条の憲法の第一条は「和を以て貴しと為し、忤ふる



こと無きを宗と為す」です。これはまさに法華經の精神・三徳の教えです。「人と人の和を何より大切にし、諍いを起さないことが根本である」ということです。

聖徳太子は終生、法華經の教えを守りながら治世をされました。その教えが次第に日本に広がり、奈良時代を経て平安時代になると、法華經はもう日本人の生活の隅々にまでしみ込んでいました。当時は「生まれたる稚児も法華經を読む」と言われた程です。

このもとは伝教大師最澄です。天台大師の教えをそのまま日本に持ち帰り、比叡山延暦寺を建立して法華經を広められました。そして、平安京を造られた桓武天皇が伝教大師を庇護されたので、さらに法華經は広まったのです。

もう一つ法華經信仰が日本に根付いた理由があります。それは藤原道長です。この人は栄耀栄華を極め、「此の世



をばわが世とぞ思ふ望月の欠けたることも無しと思へば」といふ有名な歌を残しています。これは長女の彰子が一条天皇（第66代）に嫁して後一条天皇（第68代）と後朱雀天皇（第69代）を生み、次女の妍子が三条天皇（第67代）に嫁ぎ、三女の威子が後一条天皇の皇后になった時、長女彰子が太皇太后、次女妍子が皇太后、三女威子が皇后という空前絶後の「一家立三后」という状況になりました。その時に詠んだ歌なのです。

実は道長は、その執政の当初から法華経の信行、殊に読経に熱心でした。『栄花物語』に次のような話があります。後に宇治平等院を造営した長男の頼通が病氣になった時に、道長は「ここら年頃仕え奉る『法華経』助けさせ給え。この世界に『法華経』が行われて仏道を広げたということも、その多くはそれがしが仕ったことなのです。この頼通の病の折にこそ、その験力を見奉ることなくご恩を蒙らないの



では、一体いつを期したら良いのでしようか」と祈願して
います。〃日ごろ法華経を信行し、広めているその功德を
今見せて欲しい。今見せてもらえなければ一体いつその功
徳が見えるというのでしようか」と守護を求めたのです。

と同時に、ここには強い信行に対する自負が感じられます。
頼通の病氣は靈障であることがわかり、法華経読誦によ
り悪靈が成仏退散して頼通の病氣は治ります。この後、頼
通は関白を50年の長きにわたって務め、父道長とともに藤
原氏の全盛時代を築きました。

このような話があるように、法華経には大変な功德が
ある。藤原摂関家一門の繁栄は法華経信仰の結果だ」と、
宮中から一般庶民に至るまでみんな、法華経を一生懸命信
行し、平安時代には法華経読誦の音が天下に満ち満ちたと
言われています。



法華八講

法華経には受持・読・誦・解説・書写の「五種法師の行」をするように説かれています。平安時代には法華経解説のために「法華八講」が盛んに行われていました。法華経八巻を八座に分け、朝夕二座講じて、四日間で終わるのが「法華八講」です。清少納言の『枕草子』や、紫式部の『源氏物語』にもよくその話が出て来ます。

ちなみに紫式部は道長の長女彰子に仕えた女官で、清少納言はその前の皇后定子に仕えた女官です。

法華経を説くのも上手なお坊さんとそうではないお坊さんがいたようです。そうした中で、清範というお坊さんが大人気でした。清少納言が『枕草子』を書いた時、清範上人は25歳だったといっています。説法無双で「文殊の化身」と言われていました。その清範上人の話が『枕草子』や、



『源氏物語』に出てきます。清少納言は知的教養の話の中に、紫式部は敬虔な信者の立場で書いています。

紫式部が「妙なりや今日は五月の五日とて五つの巻にあへる御法も」という歌を残しています。これは、五月五日の『法華八講』で五の巻が講義されるとは、五が三つ並んで本当にありがたいという意味です。

五の巻の最初は「提婆達多品第十二」です。当時はこの提婆達多品が「悪人成仏・女人成仏」ということで非常に人気がありました。「法華八講」のクライマックスも五の巻でした。

お坊さん達は、今までは説法をしているだけでしたが、ここでは行道をして散華をします。その時、行基菩薩作の「法華経を我が得しことは薪こり菜つみ水汲み仕えてぞ得し」という有名な和歌を詠みながら行道散華をしまし



た。また一般の人は、わざわざ薪を背負ったり、水桶や菜桶を担いだりして、それぞれ扮装をして列に加わったという話です。それ程、五の巻は特別だったのです。

今昔物語に、ある貴族のお話があります。その貴族の家にきれいな娘さんがいました。10歳くらいで書も上手、和歌も上手、琴を弾くのも名手という女の子でしたが、一つ変わったところがありました。梅の木が大好きで、梅の咲く時期になると一日中、梅の木をずっと見ていました。花が散ると、その花びらを集めて宝石箱のような箱を作り、花びらを入れて匂いを嗅いで楽しんでいました。風の強い日には花びらが散ってどこかにいかないように、木の下に敷物を敷いて花びらを集め、また箱に入れていました。とにかく病的な程、梅が大好きでした。その女の子がいつの間にか病気がちになり、とうとう死んでしまいました。両



親は非常に悲しみました。来る日も来る日も、梅の木を見ては娘のことを思い泣いていました。

ある日、梅の木に蛇が巻きついて見えました。

花が咲いて散ると、蛇は口でそれをくわえて集め、一処に

置くのです。慄然とした父母は、この蛇こそまぎれもなく

娘の生まれ変わりに相違ないと思ひ、娘の成仏を願って、

先ほどの清範上人を招き、「法華八講」を梅の木の下で行

ってもらいました。蛇は最初の日からずっと、じっとして

説法を聞いていましたが、五の巻の竜女成仏のところにか

かった時に動き出し、木から落ちて死にました。それを見

た人々が「竜女成仏のところでは蛇が死んだということは、

娘さんは蛇に生まれ変わって、今法華経の教えを聞くこと

ができ、成仏したにちがいない」と口々に言いました。

その晩、父親が夢を見ました。死んだ娘が汚れた着物を

着て、悲しそうな表情で出て来たのです。そこに、清範上



人にんのようなな気け高たかいい僧そう侶りよががややっっててききてて、その汚きたいい着き物ものをを脱ぬががしてして美うつくしいい衣ころもとと袈け裟さををつつけけさせせ、紫のの雲くもにに乗のせてて何ど処こへへとももなくなく消きええ去さっってて行いくくといいうう夢ゆめででしたた。この夢ゆめのの話はなをを聞きいたた人ひとは「間ま違ちがいいなくなく法ほ華け経きやう聴ちやう聞もんのの功く徳とくでで娘むすめはは成じやう仏ぶつしたたのだ」といいい合あっったたといいううおお話はなですす。当とう時じのの法ほ華け経きやう信しん仰かうがが惚しばばれれまますす。

平へい安あん時じ代だいはは文も字じどどおおりり平へい安あんなな穩おだややかかなな時じ代だいででしたた。第だい52じ代だい嵯さい峨が天てん皇かうのの御み代よかからら武ぶ家けがが台たい頭とうすするる保ほう元げんのの乱らん、平へい治じのの乱らんの前まえままでで三さん百ひゃく年ねん以い上じやうのの間あ死だ刑しがが行おわなれれななかかつつたたののですす。ここれれももままたた法ほ華け経きやう流りゅう布ふのの功く徳とくかかとと思おもいいまますす。



御開山会が6月3日(日)に開催されます。

今年は大徳開教百十年・

顕修院日達上人第七回忌を迎え、

記念の天童音楽大法要が行われます。

三先師・日達上人さまの御前にて

三徳実行のお誓いをいたしましょう。

◆今月の山首上人さまご親修日程

大阪支院	6月10日(日)	四日市支院	6月13日(水)
豊川支院	6月20日(水)	大垣支院	6月21日(木)

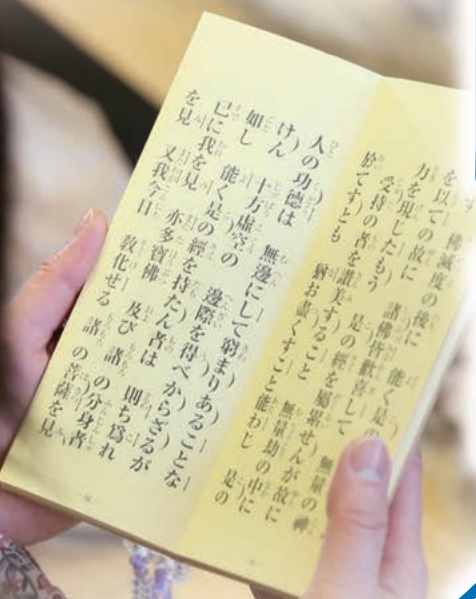
有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	今月の講話日など	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	2日・16日・23日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	10日・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・23日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0567)32-1825 ☎連絡は本山寺務局へ
佐屋支院	4日・10日・24日	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	5日・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	4日・14日・24日	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・11日・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	3日・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	5日・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	2日・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・10日・21日	伊賀市上野向島町3-4-75	☎(0595)21-0127

京都支院	1日・9日・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	2日・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	10日・23日	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	16日	あわら市春宮3-28-2	☎(0776)73-5234
和泉支院	9日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(0724)66-3112
神戸支院	9日・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(0799)42-0175
岡山支院	7日・10日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	12日	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	1日・17日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	9日・24日	三原市皆実2-9-22	☎(0848)62-5087
安芸津支院	2日・17日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(0846)45-4012
坂支院	10日	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	10日・15日・17日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(0920)44-5445
筑後布教所	24日	筑後市大字西牟田5954-1	☎(0942)53-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(0964)58-0742
田川支院	10日・24日	田川市春日町7-30	☎(0947)42-1819
名古屋地区	7日・17日・27日	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	工事により休止	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	11日・24日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(0771)25-7807

※開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

御開山会



ご参詣のお供に

平成30年 御開山会

三徳開教百十年

顕修院日達上人第七回忌

御報恩法要

三徳開教百十年・顕修院日達上人第七回忌を
迎えるにあたり、

記念の天童音楽大法要を虔修いたします。

当日は稚児行列やバザー等を実施し、
本堂では過去の貴重な映像をご覧いただく等、
種々の催しを行うことが予定されております。

期日…平成30年6月3日(日)

皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。

大乗山 法音寺

皆さんの作品を募集します

三徳開教百十年を迎え、来る御開山会の特集を
『法音8月号・586』誌上で予定しております。
つきましては、左記の通り特集に掲載する作品
を募集いたします。ぜひ奮ってご応募ください。

記

- 一、 参詣された方の感想文
- 一、 稚児行列に参加された子どもさんの作文、
または絵
- 一、 お稚児さんの保護者の方が撮影された
お子さんの写真
- 一、 ご奉仕された方の感想文

☆募集方法

作品に、所属・氏名・年齢(学年)をご記入の上、
各支院・布教所へお申し込みください。

☆申込締切

平成30年6月27日(水) 法音寺・広報委員会必着

特別企画

聖の教え

(完)

正しい信仰——大乗山法音寺の信仰

「みほとけよわがたましいをとこしえに

みのりのためにつかいまさなむ」

御開山上人御詠

◆経典

◆若し能く妙法華經を、受持することあらん者は、當に知るべし佛の所使として、諸の衆生を愍念するなり。諸の能く妙法華經を、受持することあらん者は、清淨の土を捨てて、衆を愍むが故に此に生ずるなり。當に知るべし是の如き人は、生ぜんと欲する所に自在なれば、能く此の惡世に於て、廣く無上の法を説くなり。

妙法蓮華經・法師品 二〇五頁

◆諸の所説の法、其の義趣に隨つて、皆實相と相違背せじ。若し俗間の經書・治世の語言・資生の業等を説かんと、皆正法に順ぜん。三千大千世界の六趣の衆生、心の行ずる所、心の動作する所、心の戲論する所、皆悉く之を知らん。未だ無漏の智慧を得ずと雖も、而も其の意根の

清淨なること此の如くならん。是の人の思惟し籌量し言説する所あらんは、皆是れ佛法にして眞實ならざることなく、亦是れ先佛の經の中の所説ならん。妙法蓮華經・法師功德品 三一六頁

◆若し發心して阿耨多羅三藐三菩提を得んと欲することあらん者は、能く手の指・乃至足の一指を然して佛塔に供養せよ。國城・妻子及び三千大千國土の山林・河池・諸の珍寶物を以て供養せん者に勝らん。
妙法蓮華經・藥王菩薩本事品 三四一頁

◆遺文

◆一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給え。相構え相構えて信心強く候うて、三佛の守護を蒙らせ給うべし。行學の二道を勵み候べし。行學絶えなば佛法はあるべからず、我も致し人をも教化候え。行學は信心より起るべく候。力あらば一文一句なりとも談らせ給うべし。

諸法實相鈔 九七二頁

◆抑々今の時法華經を信する人あり、或は火の如く信する人もあり、或は水の如く信する人もあり。燃え立つばかり思えども、遠ざかりぬれば捨つる心あり。水の如くと申すは、何時も絶えせず信するなり。

上野殿御返事 一六四七頁

◇御みやづかえを法華經と思し召せ。『一切世間の治生産業は皆實相と相違背せず』は此なり。

檀越某御返事 一六五五頁

◇器に四の失あり。一には覆と申してうつぶけるなり。又はくつがえす、又は蓋をおおうなり。二には漏と申して水漏るなり。三には汗と申してけがれたるなり。水淨けれども、糞の入りたる器の水をば用ゆる事なし。四には雑なり。飯に或は糞、或は石、或は沙、或は土などを雑えぬれば人食うことなし。器は我等が身心を表す、我等が心は器の如し。口も器耳も器なり。法華經と申すは佛の智慧の法水を、我等が心に入れぬれば、或は打返し、或は耳に聞かじと、左右の手を二つの耳に覆い、或は口に唱えじと吐き出しぬ。譬えば器を覆するが如し。或は少し信ずる様なれども、又惡縁に値うて信心薄くなり、或は打ち捨て、或は信ずる日はあれども、捨つる日もあり、是は水の漏るが如し。或は法華經を行ずる人の、一口は南無妙法蓮華經、一口は南無阿彌陀佛など申すは、飯に糞を雑え沙石を入れたるが如し。法華經の文に『但大乘經典を受持することを樂うて、乃至、餘經の一偈をも受けざれ』等と説くは是なり。世間の學匠は法華經に餘行を雜えても苦しからずと思えり。日蓮もさこそ思ひ候えども經文は爾らず。

秋元御書 一八四四頁

◆安立大法尼

妙法みょうぼうを知しれるは三千年さんねんに一度いちどの奇縁きえん このたび妙法みょうぼうを知しれるは、実じつに三千年さんねんに一度いちど咲さく優曇華うどんげの花はなの如ごとくです。この期きに、権教ごんきょう、実教じつきょうを分別ぶんべつし、正ただしき信仰しんこうをせざれば、幾億年過いくおくねんすぐるとも成じやうぶつ仏ぶつの時ときはありませぬ。会員かいいんの皆様みなさまはこの理ことわりを悟さとり、真しんの信仰しんこう、功德くどくの信心しんじんをいたしましょう。真しんの信仰しんこうとは、常つねに菩薩道ぼさつどう、すなわち六波羅蜜はらみつの修行しゆぎやうをするのです。いわゆる六波羅蜜はらみつと申もうすのは、次の六つを言いうのです。

一、檀波羅蜜だんぱらみつ 布施ふせとも慈悲じひとも申もうします。人ひとを善ぜんに導みかくを上品じやうほんとし、人ひとの心こころを和やわらぐる言こと葉はの施ほごしを中品ちゆうほんとします。物質ぶつしつの布施ふせは下品げほんですが、これを法ほうの施ほごしと共ともにすれば上品じやうほんとなり
ます。

一、尸羅波羅蜜しらはらみつ 持戒じかいとも誠まこととも申もうします。戒かいとは非ひを防ふせぎ、悪あくを退しりぞけることです。何事なにことも誠まことをもって不善ふぜんの行おこないを行ぎやうせざるはもちろん、我わがが身みの本文ほんぶんを忘わすれず、社会善導しゃかいぜんどうに心こころを留とどめることを言いうのです。

一、羸提波羅蜜れんたいぱらみつ 柔和忍辱にやうわにんにくとも申もうします。決けつして怒おこらぬことです。我われは大人おとなである。無理むりを言いう者は子こどもだと思おもって忍しのぶのです。一度いちどの怒いかりは百日にちの功德くどくをも一瞬時しつじに消けしてしまいます。怒いかりもお互たがいの罪障ざいじやうです。我わがが身みの罪つみが相手あいてに乗のって腹立はらだたせ、相手あいての者ものにまで罪つみを作つくらせるのですから、相手あいてを氣きの毒どくと思おもうのです。

一、毗黎耶波羅蜜 勇猛精進とも申します。余事に交わらず、弛まず進むことです。陰日向なく善の種まきに努力することです。生ある者は必ず死あり、今日も旅、明日もまた旅して、一步一步冥途に近づくのです。明日と言わず今日より無駄に暮らさぬよう、明日も無駄に暮らさぬように、善因を作ることゝ進みましよう。

一、禪波羅蜜 禪定とも申し、ものに驚かぬとも申します。石の上に尻の跡がつくまで座わっていることではありません。君に忠、親に孝にして現世安穩に、後生も善処となるべき法と知りながら、悪縁に誑されて不善の道に這入るは禪定なき者であります。不善のことをすれば咄嗟の災難が必ず来て、驚愕せねばなりません。他人は何と言おうとも、動ぜず進んで利益を受けましよう。

一、般若波羅蜜 仏智とも申します。他人の過ちを見て我が過ちを防ぐ資料とし、人を責めず反省するよう、あるいは己身を示し、他身を示して事を静かに治めようとする智慧を申します。「うれしや隣の蔵も売れたそうな」というような人は、仏智のある人とは言えません。皆様はこの意をよくよく悟って、真の信仰をしてください。必ず幸福は眼前に来ります。実行せらるる皆様のお徳によって、我が会も一層発展いたします。どうかよろしくお願い申します。

◆宗玄大徳

商売繁盛の秘訣

商売を繁盛させる秘訣は、善い品を人の真似ができぬよう、なるべく利を薄くして廉価に提供することが第一だと思ひます。すべて商売の繁盛せぬのは、お客に對して不親切なことをするとか、誠意が欠けているとか、買う身になつて売らぬということが原因です。少しでも多く儲けねば損だと考へるのは、ただ自己を愛する考へであつて、言い換えれば、貪欲を欲しいままにしているのであるから、人から嫌われるのは当然の理であります。

「商売をするなら余り儲けぬよう、お客を大切にして喜ばせるようになさい。必ず繁盛します」と、いつも皆さんに申してはいますが、この私の話を聞いて実行なされた方は、どんな商売でも実際に繁盛するようになっています。

村上先生御法話集(二) 一五〇頁

覆・漏・汗・雑の事

日蓮聖人はこの功德を失せぬよう、器に例えて注意すべきものを挙げられて

れています。曰く、「一には覆と申してうつぶけるなり。又はくつがえす、又は蓋をおおうなり。二には漏と申して水漏るなり。三には汗と申してけがれたるなり。水淨けれども、糞の入りたる器の水をば用ゆる事なし。四には雑なり。飯に或は糞、或は石、或は沙、或は土など、を雑えぬれば、人食うことなし。器は我等が身心を表す、我等が心は器の如し。口も器耳も器なり。……此の覆・漏・汗・雑の四の失を離れて候器をば完器と申して全き器なり」(秋元御書)。

尊き功德の保ち方を例えて申しましよう。覆とありますが如く、妙法の唱えを怠り、日常行為に慈悲が欠けたりしますと、その徳が働きません。ある時は喜び、ある時には腹立って、長い年月に得た功德の器を転覆してはならぬのであります。漏とは、六波羅蜜、すなわち慈悲・至誠・堪忍等の六度の一も欠けないよう堅く守り、漏らさぬようにすることです。汗とはわが身の不浄、すなわち煩惱に悩まされて功德の受けられぬことを申します。例えば、泥まみれの手に食物を受けても食われざるようなもので、早くそのけがれを洗い清めねばならぬのであります。雑とは、妙法の信心薄くなりて、あるいは捨て、あるいは信ずる日もあり、捨つる月もあり、あるいは方便の門をくぐりて方等經に依つて見たり、あるいは、大日經等に依つて見る等であります。末法、妙法広宣流布の時には「但楽つて、大乘經典を受持して、乃至余經の一偈をも受けざるあらん」(譬喩品)と、教主釈尊は厳しく訓戒されております。しかしながら、いかに小乗とはいえ同じ仏陀の所説なれば、これを依用するとも悪事を成すようには思われぬ故、これを混ぜてもよろしからんと思うのであります。かの上行菩薩の再来たる日蓮聖人はかく申されていきます。「世間の学匠は法華經に余行を雜えても苦しからずと思えり。日蓮もさこそ思ひ候えども經文は爾らず」(秋元御書)と、依法不依人の訓戒を基とされ、くに二王なきが如く法王もただ一なり、三世の諸仏が仏と成り給いし妙法蓮華經を法王とし、大決心をもつて宣説せられたのであります。例えば、飯の中にもし一滴の石油を混入すれば、何人にもそ

の飯は食せられぬようなものでありますから、よくよく注意をしてください。せっかくの功德もかごで水をくむような受け方をしていたり、堪忍を破って大切な功德を怒りの炎で焼き捨てぬよう、また傾けぬように注意し、覆・漏・汗・雑の四の欠陥を去ってこの功德を活用し、大いなる希望と決心をもって、勇往邁進せられることをお願い申します。

村上先生御法話集(一) 二四八頁

◆御開山上人

日常生活と信仰 仕事を一生懸命やることはもちろん大事ですが、その仕事をやりながら、この法と縁がある仕事をしてゆきたいと思つのであります。

皆さんもご承知の通り、仏さまの教えがありませんと、これは仏さまもお経の中におっしゃっています、まず貪りをするとか、愚痴を言うとか、腹を立てるといふようなことが多くて、功德を積めるといふ日は無いといふことになっております。誠に馬鹿にしているといふふうであります、そういうわけです。

仏さまの教えを聞きますと、同じように働く間の働きが非常に意義あるものにできるのであります、第一に世の中の人々は、自分の商売はつまらない。人の商売がいい。自分の境遇より人の境遇の方がいい、というように、自分の達者を喜ばず他のことばかりをうらやましが

っているのであります。よくその内容を調べずにうらやましがっておるのは誠に愚かでありま
す。よく内容を調べて見ればどこにも陰の方があり、裏の方があるということを知らなければ
ならんと思います。

仏さまの教えを聞きますれば、その日その日は本当に楽しくて愉快に暮れるのであります。
今日も「おかげさまで今年は、皆さんお米が取れないというのに自分の家は非常によく取れま
して、誠にありがたいと思われました。本当にありがたいのでお礼に來ました」と言っておいで
になった方もありますが、これが今日だけではなく、この頃皆さん口を揃えたようにおっしゃ
って頂けますので、ありがたいことだと思っております。

お米がたくさん取れたということが喜びだけではなくて、お米がよけいに取れたということ
それは、家庭を平和になさって、法華経を信じていって頂くということの結果として、お米が
よく取れたのであります。商売をなさる家でも家庭が平和になって、商売が繁盛して家の中が
何となく豊かになるということが、これが仏さまの教えであります。

こういうお話を申しますると「信仰は豊かになるためにやるのか」とこういうふうに言われ
るが、もちろんそうではありまするが、豊かになりたいと思わなくても家庭が平和になって、
仕事の都合が段取りよくできて、農家の方なら物でもよく取れ、商売も都合よくゆくというふ
うになってきて、すべての点が楽しくなってくるということが仏さまの教えであります。お互

いに、自分さえ楽にすればいいということではありませんで、自分も楽しい生活をして他の人にも楽しい生活をさせるようにということが、仏さまの教えです。何も無理に世の中を苦勞して渡る必要はないわけでありませう。お互いに楽しい日暮らしをして、人の境遇を楽しくしてあげるような一生を送ることが一番利口な方法ではないかと思ひます。

世渡りをするにも一生の間苦しい思いをし、悲しい思いをし、難儀をして未来にまた地獄・餓鬼・畜生というような境遇になつてしまつたならば、こんなつまらないことはないと思ひます。皆さんのように法華經を信じ、実行してくださる方は、現在生きておられる間に幸せになつてもらつて、楽しい境遇を一生送つて頂いて、未来は無上道、極樂、仏さまと同座をされると、こういふようになってもらいたいというのが目的であります。皆さんもよくご了解して頂きましてお参り頂けることと思ひます。

御開山上人御法話集 五四頁

◆日達上人

教える人が教えられる人 法華經信仰の世界は、教える人は教える人、教えられる人は教えられる人という、一方面的なものではありません。教える人が教えられる人であり、教えられる人が教える人であるのです。私も今、こうしてお話をしております。しかし私自身、皆さんに教

えられることがいっぱいあります。また、今日聞いてくださっている方も、今度は誰かにこの

お話をしてくださるでしょう。そして教化されます。そうすることが一番大事なことであり、それがまた、法華經の心に叶うことであるのです。

大白牛車・1 三頁

法音寺三徳の流れ

法音寺は安立大法尼以来ずっと、慈悲・至誠・堪忍の三徳実行を最大の眼目としてやってまいりました。今でこそ本堂は立派になり、いろいろな設備も完備しておりますが、昔は貧乏な時代とでもいいでしょうが、随分お金の苦労をしたことがあります。しかし、いくら貧乏しておりますしてもすることは今と同じで、ご供養をしたり、施しをしたり、社会事業をしたり、いろいろなことをしてまいりました。時には施しをした物の請求書がきても、払えないこともありましたが、払えても払えなくても、お寺のある限りは続けなければと、やってまいりました。全然お金がなくて葬式ができず、困り果てておられた方の所にも、よく葬式にまいりましたし、昔は肺病とか伝染病で亡くなりますと、一般のお寺さんに敬遠されることがありました。そうした所へも出かけて、葬式をしてまいりました。安立大法尼以来の法音寺の教えの中に、こうした流れがずっと続いているのです。ですからこのお寺は、いろいろな人の苦しみ、悩みをわかってあげることができるし、救ってゆくことができます。

大白牛車・1 七六頁

三徳の実行は誰のため？ 慈悲・至誠・堪忍の三徳は、自分が満足するためにすることではありません。

表彰されたり、名前を書いて貼り出されることを目的として施しをします。しかし、名前が出たり感謝されたりした時点で、施しの本当の功德はなくなるという、厳しい教えもあります。

表彰してもらったためにする施しは、自己満足以外の何ものでもありません。施しはどこまでも一方的です。もらって頂けたらありがたいという心です。

慈悲は「助け合い」とも言えます。「共生」という言葉がありますが、共に生きるという気持ちを持ってゆくのが慈悲であります。

人生を、自分一人の力、自分の甲斐性で生きているという人がいるかも知れません。それは自分がそう思っているだけで、本当は、人間は世の中のいろいろなものに生かされ、助けられているのです。

そうした中ではまず、自分が先に慈悲を施してゆくことです。タライの水は、こちらにかき寄せようとすると向こうに行ってしまうですが、向こうに押しやれば必ず、こちらに戻ってきます。それと同じことです。

この実行は、特別に私だけがするのでありません。私は皆さんに助けられているのだから

ら、私もその中に入れて頂くという事です。皆さんが私のために堪忍をしてくださって
いるから、私も堪忍をして皆さんの仲間入りをさせて頂くという事です。

三徳を実行してゆくと徳ができ、自然に広い心になります。広い心には、ありがたいとい
う心ができてくるのであります。

『月刊法音』第二六五号 一一頁

法音寺三徳の心 法音寺の教えは、もちろん法華経が根幹をなしているものであります。わけ
ても、三徳の実行を第一の眼目とするよう、始祖以来ずっと教えられております。

なぜ、三徳の実行を眼目としているのか考えてみたいと思ひます。

私たちは皆、幸せを願っております。病氣の人は健康を願ひ、貧乏な人は、お金持ちになる
ことを願っております。また、出世をしたい、名誉を得たいというように、誰もが願ひを持っ
ております。そして、その願ひを満たすためにいろいろなことをいたします。その方法が問題
であります。

どうしても人間は、目的とするものを直接求めようとします。地位、名誉、あるいはお金を
得るために、一生懸命努力します。それはそれで結構なことです。否定するわけではありませ
んが、その方法を本当によく考えませんと、大きな間違いを起こすことになりかねないのです。
目的とするもの、たとえば、お金ならお金、手に入りさえすれば後はどうなろうと知ったこ

とではない。というように、どうしても直線的な考えに陥りやすいからです。世間を騒がしている贈収賄とか横領というような問題も、結局は金さえ入れればいい。という考えが、一番の原因であろうと思うのです。いくら多額のお金が入ったとしても、それでは幸せをつかんだとはいえません。

法華經に説かれますことは、直接求めようとするのではなく間接的に求める、つまり、その人に具わっている徳により、自然についてきたものが本当のものであり、そこにこそ幸せがある、ということなのです。目的とするもののためには手段を選ばないという、直線的な求め方は否定されているのです。

いくらお金がありましても、それを使い切るだけの徳がありませんと、かえってそのお金が身を減ぼしてしまうものになったり、苦の元になるといふことは、この世間よくあることです。また、高い地位に就いたとしましても、その役をこなしてゆくだけの徳がありませんと、その地位が重荷となり、病氣になってしまふことも、よくあります。

すべての物事の基になるものは、徳であります。その徳を積むことが、一番大切です。徳さえ具わってくれば、自然にお金も集まってくるでしょうし、地位も上がってゆくでしょう。ここから願わなくとも、いい方にいい方へと巡ってゆくようになるものです。

そこにこそ本当の幸せがある、という見地に立っているのが、法音寺三徳の信仰であります。

すべての基となる徳を積むための修養徳目、それが、慈悲・至誠・堪忍の三徳であります。その実践を、私たちは教えられているのであります。

『月刊法音』第二二八号 五頁

施しと教化は車の両輪 法音寺は、昔からよく施しをしてまいりました。まだ千種に本部のあった昭和の初期、当時は今と違って日本全体が貧しく、貧乏というと本当に貧乏で、その日の食べ物にさえ事欠くという人が大勢いました。そういう人が本部に来ますと安立大法尼は、「そうかそうか、家族は何人かね。じゃあお米をこれだけあげよう」というように、本当によく施しをされたものです。しかし、何もせずにただあげただけではありません。その時、そうなった事情をいろいろたずね、何が原因なのか論じ、必ず教化をされたのです。そして、その人が次に来た時、言われた通り実行されていれば続いて施しをされましたけれども、実行されていなければ、施しはされませんでした。

食べ物に困った人にお米を施し、ボロをまとった子どもに新しい着物を施すのもたしかにいいことには違いありません。しかし、ただ何もせずにあげるだけでは、慈悲のようであって本当の慈悲ではありません。そうした行ないは、その人たちの悪い面を助長させるだけのことで、立ち直るきっかけをなくしてしまふからです。

施しをすると同時に指導をしてゆく、優しさと厳しさの両方が相まってこそ、本当の慈悲に

なるのであります。

『月刊法音』第二二八号 八頁

にちじょうせいいかつ
日常生活すべての営みが法華經 「若し俗間の經書・治世の語言・資生の業等を説かんも、皆
しょうぼう
正法に順ぜん」 (妙法蓮華經・法師功德品)

法華經を如説修行し、功德ができてゆくと日常生活の中で行なうことがみな、仏さまの教え
ほけきょう によせつしゆぎょう 功德ができてゆくと日常生活の中で行なうことがみな、仏さまの教え
をはずさないようになるゝというのです。意識的にやるというのではありません。無意識の内
あいて よろこ 相手に喜ばせることができるようになるのです。

ここまでいったら大したものです。意識して人を喜ばせようとすることも大切ですが、やる
ことなすことが自然に功德の本となり、人を喜ばせ、まわりの人の力になってゆけるところま
で功德を積んでゆきたいものであります。

『月刊法音』第三九五号 一二頁

俗間の經書 仏教以外の、一般社会諸種の名著。

治世の語言 政治上の言論・事業など、みな法華經の

精神に順じて行なえと説かれる。

資生の業 生活上の職業。

治生産業 治生とは生活を治めること。産業とは生業。

即ち、人が生活をしていく上での諸事万般。

とこののはの記

三徳開教百年 特別企画

安立大法尼の教え

⑤

本当のお参り

神さまや仏さまにお参りされる人それぞれに、祈願が異なります。

「無病息災に暮らせませすように」

「商売が繁盛しますように」

「長生きできますように」

「極楽に行けますように」

私達がお参りしようとする時、私達の前には神仏が祀



られています。かつては地上に人間として生まれ出で、人類のために偉大な功績を遺された方々です。この大恩人がその生前に積まれた功德を祀り、私達はこれを神仏として崇拜するのです。同時にその偉人・聖人のお徳を「ありがたい」と感謝し、その徳行と等しく異なることのない「徳の人」となることを誓わなくてはなりません。気ままな行いをしつつ、自分勝手な祈願を神さまや仏さまに向かつてしても、「まかぬ種は生えぬ」と言うように、善因がなければ願いが叶うことはありません。

「お参り」の本当の意味を理解し、神仏を敬い、日々徳を積み、お釈迦さまの言われる通りに実行するようになるれば、必ず幸福が自然に集まってきます。

まず、慈悲深く、自ら行いを正しくして人にも教え、

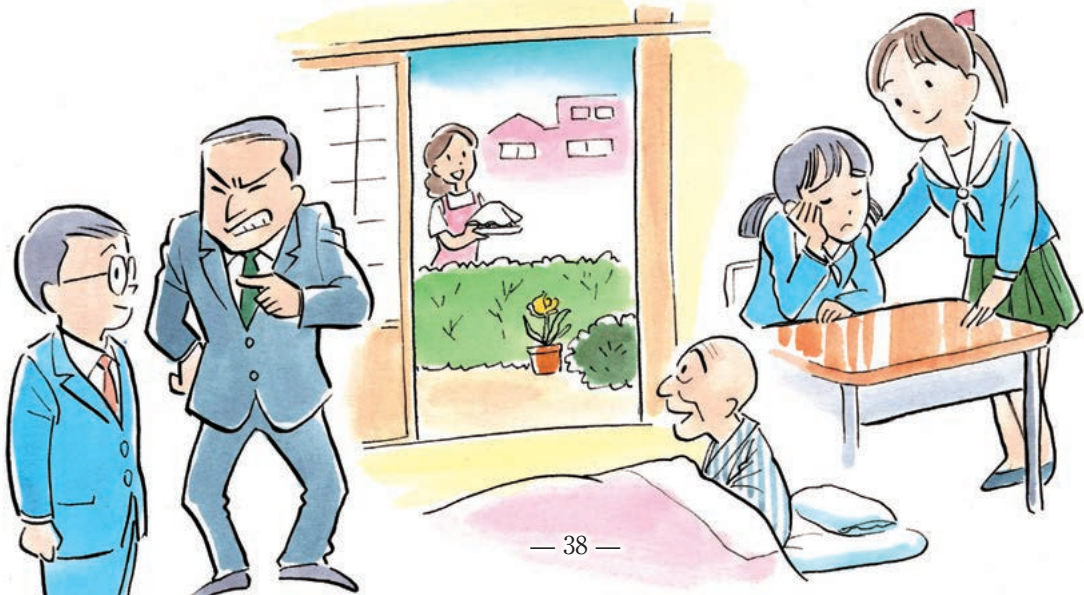


ひと言発するにも人の心を和らげるように心掛けましよう。不幸な人には慰安を与え、お腹を空かせている人には食を与え、常に救済的行為を怠らず、その後、人の道を教えてあげましよう。

私達は万物の霊長ですから、世の模範となる行為がなければなりません。時に悪人をも感化して、善人に導く努力をしましよう。

心を広くし、どんな場合にも怒らないことを誓いましよう。〃無理を言う人は子どもだ〃と思えば、怒る必要もないでしょう。一度怒ると、長い間積んだ徳が一瞬にして失われてしまいます。常に最も守らなければならぬのは「堪忍」です。

私達は天から与えられた身ですから、人知れず常に陰



徳を積むだけでなく、日常において善行を心掛けましょう。

行動を起こす際に、よく善悪を考え、仁・義・忠・孝の道に反しないようにしましょう。

以上のように、自他ともに善に進むべき方法を考えて行動することが、すなわち妙法蓮華経の実行です。片時も忘れないように、南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経と唱えるのが本当の参拝です。

皆さんは、いつも神さま仏さまを敬う気持ちを忘れず、自分の身に功德を積んでください。自分の行うことが道に叶っていると、必ず自分の身にご利益があり、何事も自由自在とすることができるようになります。



のりのね体験

いま・昔

人のためにやらないのがかえって損

石原 義康（昭和13年2月 樹徳26号）

私はこの修養に入って、奉仕によって更生し、宗教的因果律を深く味わったことがあります。当時の私は生来の病弱のために、工場生活に耐えられず、しばしば欠勤していたので成績不良でしたが、病気ばかりはどうすることもできず、悶々とする日々を続けていました。しかも両親は病弱な私のために、老体に鞭打っているのです。そういう両親の姿が私にとって大きな悩みで、何とかして健康になり、安心させたいと念願していたのです。元気はつらつとして希望に輝く青年期に、意気消沈して前途はまったく真つ暗闇でした。

このように悩み続けていた時、〃三毒（貪・瞋・痴）は病の根源、三徳（慈悲・至誠・堪忍）は健康長寿のもと〃という、すばらしい教えに接したのです。その教えによって反省してみることが、これまでの私は自己中心的で、〃人のためにすることは何でも損だ〃と書いていましたが、これが大きな間違いで、〃人のためにやらないのがかえって損だった〃ことに気づきました。

それから私の生活は一変し、朝は近所の掃除、夜は人の使い、日曜は何かと奉仕をさせてもらったのです。こうして絶望の淵から救われて歓喜の数カ月が経過し、静かに反省いたしますと、病弱であった私が驚く程健康になっておりました。さらにうれしいことは、病身に誰でもありがちな持病がまったく出ないようになったのです。

これは、人間の喜怒哀楽によるすべての運命は、過去の行いによるものであって、私のような持病に悩むのも過去の悪因があったからなのですが、奉仕によって徳を積ませていただき、その徳によって悪因を消滅することができたのです。

これまで、一般的に宗教は退嬰的なものという考えから、私達青年には必要なしと省みようともしなかったのですが、このように進歩的、いや躍進的なものであったのです。「因果は定められたものだから、どうしようもない」という姑息な宗教観念を打ち破り、自分の努力と指導方法によっては「どのような悪因があっても善い結果に導くことができる」という、真の宗教的信念を体験したのです。

前会長の杉山辰子先生を一言で言えば「一切衆生に救う心を起こさせよ」という仏の言葉に尽きるのですが、これこそ「奉仕の極致」というべきものでしょう。私達はますます奉仕的精神を養い、三徳の修養に努め、恩師の御遺訓に添うことを痛切に感じる次第です。

ケガの巧妙

坂支院 荒部谷 妙子（平成29年12月 信教師会報第48号）

長年団地に住んでいますと、さまざまな人との出会いがあります。近所のお年寄り（Kさん）と知り合いになりました。Kさんは植木の剪定、庭木の手入れするのが趣味で、我が家の庭を見て、「今度私が剪定してあげよう」と言ってくれました。

それから数カ月後、支院で御報恩納経の写経会があり、〃今日もお徳を積ませていただいておりますが、ありがとうございました。〃と感謝しながら支院を出た時、坂道で転んでしまったのです。起き上がってみると、右肩に違和感があり、動きも悪く、痛みもだんだん増してきました。信者の方に助けをいただいて、近くの整形外科に連れて行っていただきました。検査の結果は鎖骨骨折でした。その日は先生から痛み止めを戴き、帰宅しました。すぐにお徳を積ませていただき、お題目を唱え、二晩過ぎました。

自分の不注意でケガをしたのは不徳なことなのかもしれませんが、よくよく考えてみますと、これは諸天より私に〃何かを悟るようにとのご教示なのだ〃と心を切り替え、命に別状なかったことを喜びにかえました。

その後、大病院に入院となり、手術をしていただくことになりました。順調に回復し、退院して自宅に戻って驚いたことがあります。それは私の入院中、Kさんが毎日朝夕に我が家の庭木の散水やメダカの餌やりに通ってくださっていたことです。その後も何かと支援してくださ

いました。このようなご縁で狭い庭でも手入れしてくださって、見違えるほどきれいにしてくださりました。

Kさんにそれとはなくご法のお話はさせていただいておりましたが、2月の節分会の時「お寺で一度お話を聞かれませんか？」とお誘いしてみますと「いいよ」と二つ返事で、ご一緒してくださいました。初めて支院へ行かれたKさんは、中に入ると皆さんが笑顔で迎えてくださったことで温かみを感じ、「親切にしてくださいました」と大変喜んでおられました。「来月のお彼岸もいかがですか？」とお誘いしますと「ぜひ行かせてもらおうよ」と言ってください、その後、毎月と一緒に参りさせていただいて現在にいたっております。最近、Kさんがお寺から帰宅すると、ご家族から「爺ちゃん、お寺にお参りすると、ニコニコ笑顔でとてもいい顔しているね」と喜ばれておられるそうです。Kさん自身も、

「気の短い自分が、心が穏やかになったのが不思議です」と言っておられます。

ケガで痛い目にあっただけで、一人の方にご法の縁を結んでいただけたことに大きな喜びを感じて、とてもありがたく感謝しております。今後一人でも多くの方に、ご法の縁を結んでいただけるように精進していきたいと思えます。



幸せを育てる漫画『ひまわり』 待望の単行本化!

月刊法音で連載中の漫画『ひまわり』の第一巻。

こんなとき、蓮くんたちは、どうしたらろう
読者の成長とともに、新たな発見があります

監修／鈴木正修 作画／竹中 淳

すずき出版 刊 定価 1,000 円(税別)



法音寺のパンフレットが できました

多くの方に法音寺を知っていただくために
お使いいただけます。

掲載内容

心に寄り添うお寺と仏教 … 仏教とは? お寺とは?
信仰と福祉のお寺 … 法音寺の理念・歴史のご紹介
仏教福祉と社会貢献活動 … 福祉事業・教育のご紹介
法音寺とのお付き合い … 年間行事・日々の活動・供養のこと
法音寺のご案内 … 支院一覧・関連書籍・ホームページ等

是非ご活用ください



あなたも 法音寺メールマガジンに 登録してみませんか?

このたび法音寺では新たなメールマガジンの無料
配信サービスを開始することになりました。毎週火曜
日の朝7時に、山首上人のみ教えや毎月の予定、人に
やさしく生きていくための
コツなどを配信します。



メールマガジン登録フォームはこちら▶▶



福祉に 生ききる

特集

第10回

社会福祉法人昭徳会

福祉実践発表会

❖ 昭徳会・高齢者福祉の実践発表 ❖

◆特別養護老人ホーム 安立荘

「看取りパンフレット」で

家族と一緒に看取りを考える

充実した人生の最期を送るための取り組み

生活相談員 高田 美沙子

今回、私達はご入居者に充実した人生の最期を送っていただけるよう、「看取りパンフレット」の作成実践について発表させていただきました。このパンフレットは現在も継続して取り扱っているのですが、これを通して看取りとはどういうものなのかをご家族が一

緒に考えていただけたことは大きな成果でした。そもそも看取り介護自体は平成22年1月よりスタートしておりましたが、平成25年11月からはより質を深めるべくプロジェクトとして進めることとしました。

看取りというのは、病状の改善が見込まれない方に対し、延命治療のような積極的な医療行為は行わず、慣れ親しんだ施設で、ご家族やスタッフなどの見送りにより、最期の時を迎えていただくケアです。ご家族との関わりが大切になるため、私達は看取りとなった方にはご家族と一緒に過ごしていただけるよう静養室にお移りいただきます。今回の取り組みでは、その静養室を快適な空間にリニューアルすることから始めました。これによって築30年目を迎え、老朽化が進んでいた施設の一部が大変過ごしやすい空間になったのです。

さらに、エンゼルケアによりメイクを丁寧に行った
り、偲びのカンファレンスを通してご家族と思いを語
り合ってきました。こうした活動は、死期が迫った時
期にはなかなか冷静に判断することが困難だったご家
族にも受け入れられ、パンフレット作成に対し、大い
に役割を果たしていただくことになりました。

看取りパンフレットは、ご入居者が今後どのように
過ごすのかを写真やイラストでわかりやすく説明した
り、看取りケアの内容
を示したりしました。

ご家族からは看取りに
ついて、真剣に考える
きっかけになったと言
われることもあり、作
成して良かったと感じ
ることができました。
また、このパンフレッ
トは看取りを希望して
いない方にも丁寧に説
明していくための資料
になっていくため、そ



の時点では看取りを希望されていない方でも意向の変
化を継続的に見ることができ、その点でも効果があり
ました。

看取り介護は、介護施設ではますます大切な取り組
みになっていくと思います。私達は、この取り組みを
発表したことで一息をつくのではなく、明日にでも看
取りの可能性があるご入居者のために、このパンフレ
ットを上手く活用し、その方の人生の最期を大切に締
めくくれるようケアしていきたいと思っています。

◆特別養護老人ホーム 高浜安立荘

希望に寄りそつターミナルケア

〜特養看護員の関わり〜

介護員 近藤 貴之

第10回福祉実践発表会にて、私達は「希望に寄りそ
うターミナルケア〜特養看護員の関わり〜」と題し発
表しました。

ターミナルケアとは、終末期に無理な延命治療は
行わず、自然に任せ最期まで人間らしく暮らしたい

というご利用者に対し、医療のみに頼ることなく我々
にできる精一杯のケアを提供するという事です。高
浜安立荘のターミナルケアで大切にしていることは、
ご利用者が人生の最後まで尊厳のある生活ができるよ
う支援することです。

実際に発表させていただいた事例で、食事摂取が困
難となったA様のターミナルケアの内容についてお伝
えます。

A様は入所後、誤嚥性肺炎で入院されました。病院
では飲み込む機能が低下しているため、口から食事を
摂ることはできないと説明があり、この内容は施設の
主治医にも伝えられ、ご本人、ご家族、医師、看護師
で今後の対応について意思確認を行いました。終末期
と診断され、ご家族は「高浜安立荘で自然な形で最期
を迎えて欲しい」と希望されました。

その当日に今後の支援について話し合いを行い、希
望するターミナルケアの計画書を作成しました。「飲
み込みは無理」と言われていましたが、「食べたい」と
いうA様の希望を叶えるため、高カロリーのプリンな
どを提供しました。退院後の一週間は看護師で吸引や
食事の介助を行い、状態が安定した後は介護員が引き

継ぎ、食事の介助を
しました。また、ご
家族の希望で、毎週
水曜日に状態の報告
を行いました。A様
にはさまざまな行事
に参加していただき、
他利用者や職員とた
くさん関わりながら
過ごしていただきま
した。その後A様は
老衰という形で天寿
を全うされました。

施設に入所されている方は、A様のように、施設で
の看取りを希望される方がほとんどですが、自宅
で最期は過ごしたいと希望される方もいらっしゃいま
す。そのようなご希望のある方に対しては、一日おき
に職員が訪問し、様子を伺うことでご家族に安心して
いただけるよう努め、今後起こりうる状況の説明、必
要な介護用品の貸出しと使い方を伝えたりしました。
誰もが迎える「死」という避けられない状況を、施



設で迎えるご利用者、そしてお見送りするご家族が納得し、悔いのないように援助させていただきたいと私達は思っています。また、ご自宅で最期の時を過ごしていただくことも一つの援助方法と考え、ご利用者、ご家族の希望に沿った看護、介護ができるよう努力してまいります。

◆特別養護老人ホーム 小原安立

小原安立× Possibility (可能性)

～ 法人理念の具現化に向けた地域密着型サービスの取り組み ～

グループリーダー（介護員） 成瀬 友昭

小原安立では社会福祉法人の公益性と法人理念の具現化に向けて、地域で暮らす高齢者にできることはなにかを探求するため、平成25年度より地域貢献委員会を発足し、関係機関から情報収集を開始しました。そしてそこから、不足している地域のニーズに応えるため、平成28年5月より地域密着型サービス（認知症対応型通所介護）を新規開設し、表出する諸課題に対して、これまでの暮らしが継続できるよう「利用継続」

について取り組んだ実践についてご紹介します。

A様は要介護認定の結果、「要支援2」となり、小原安立の認知症対応型通所介護（以下、「通所介護」という）の利用継続を希望されていますが、介護予防対象者（要支援1・2）の受入れを想定していなかったため、このままでは利用継続が困難となってしまう。そこで通常、申請から利用許可までに3カ月程度必要ですが、申請業務を一週間で済ませ、豊田市に利用申請を行った結果、約2カ月で利用開始ができ、利用継続につながりました。ご本人にも「また来れるようになって良かった」と喜んでいただけました。

B様はグループホーム利用中に転倒・骨折・長期入院となり、その後一旦、小原安立への入居となりました。しかし、ご本人の「グループホームに戻りたい」との強い意向を実現するため自立支援に取り組んだ結果、要介護度が改善しグループホームに再入居することができ、ご本人ご家族ともに喜んでいただくことができました。

C様は家庭の事情により生活保護申請が必要になったため、新たにグループホームで生活保護法等指定介護機関申請を行い、生活保護が必要な入居者ニーズに

応えることができました。ご家族も「不安だったけれど相談して良かった」と喜んでいただけました。

今回の実践を通して『日本の福祉を築いたお坊さん』に書かれていた鈴木修学先生の築き上げた福祉の教えが、現在にも精通していると学ぶことができました。

『窮すれば通ず、という言葉があります、真心をもって社会事業をすれば、助けてくれる人が沢山あるということ。事業は為せば成るものだということ』

まさに今回の申請手続き等は、目の前のご利用者の幸せを叶えるために、さまざまな人達に協力していただいたため、「窮すれば通ず」だと思いました。

今後、日本は経験したことのない超高齢化社会を迎えます。社会保障費も増大する中で小原安立が地域の人の理解を得ながら、自主



的に地域づくりに取り組むことで、Possibility（可能性）を発揮しこの小原地域になくてはならない事業所として、地域の方を幸福にしていきたいと思えます。

◆高齢者短期入所生活介護事業・いこいの宿高浜安立

回想法の取り組み

〜いつまでも若い頃の思いを大切に〜

生活相談員兼介護員 稲船 寧

当事業所と高浜安立荘は毎月、認知症予防の一つとして、回想法の実践に取り組んでいます。回想法の目的は、若い頃のことを思い出し脳の活性化を図ることです。昔の道具にふれて若い頃の思い出し、使い方を他者に教えることで、役立ち感の復活と昔の記憶をより思い出すことができます。

回想法では、皆が思い出を人に語り、そこから対話が始まります。懐かしい話は、おもしろく楽しい話になり、共感して人々に絆が生まれます。これが新しい仲間づくりや世代間の交流のきっかけとなります。

手でさわったり臭いをかいだりすることで、脳がさ

らに活性化され表情も良くなり、言葉を発する回数も増えて当時の苦勞や楽しい思い出話が出てきます。このように懐かしい道具は、脳によりいい刺激になるので、いつでも自由に見たりふれたりしていただけるように、月替わりで施設内に置くようにしました。昔の雑誌も評判が良く、当手を振り返りながら、青春時代を話されます。

特徴的な二名の利用者の様子をお伝えします。一人目は、A様 女性96歳 要介護3 認知症テスト12点の方です。ご家族のお話では、「就寝後も頻繁にトイレに行き、いつも不眠傾向で、昼間も傾眠が多いです。最近では『わからん。わからん』、と言うようになっていく」という方です。A様には、利用日に合わせて週に一回、回想法を実施していただきました。テーマに沿った懐かしい物にふれて、思い出話をしてもらいました。A様は表情も明るく活き活きと話され、いい刺激を受けていると思います。ほかの方が話していると耳を傾け、コミュニケーションを取る上でも良い効果が得られています。夜間のトイレの回数が減り、睡眠時間も長くなりました。

二人目は、B様 女性87歳 要介護1。認知症テス

ト14点の方です。ご家族によれば、「ここ何年かは、要介護1と変わらないですが、少しずつわからないことが増えている。夜の睡眠時間に波があり、一晩に何回か起きることもある。また時間的な感覚や、自分のいる場所がわからなくなってきた」とのことです。B様には、施設での回想法に加えて毎月高浜市で行っている認知症カフェに出席して、地域の方との交流や回想法が行えるようにしました。これによって回想法を

始めた頃よりも会話の時の反応が良く、自ら話すことが多くなり、地域の方と交流することにより表情もすっかりとされてきました。

今後もしこの宿では、回想法を通じて、色々な方々の交流を深めていきたいと思っています。



東京支院の皆さんが高浜安立荘と ケアハウス高浜安立を見学



写真提供・昭徳会

社会福祉法人 昭徳会 ～自立支援介護と回想法の取り組みに感激～

平成30年4月21日（土）、すがすがしい晴天の中、法音寺東京支院の18名の皆さんが高浜安立荘とケアハウス高浜安立を見学されました。当日は、日本福祉大学美浜キャンパスを見学されてからの来荘となり、到着後すぐに両施設の施設長からそれぞれの取り組みが紹介されました。

まず、高浜安立荘から「自立支援介護」いわゆる「おむつ外し」の取り組み事例を紹介しました。何となく行う介護ではなく、専門的な理論や介護技術を活用して科学的に実践するもので、寝たきり・胃ろうの若年のご利用者の劇的な改善事例を報告させていただきました、あきらめない介護を実践する大切さについてお伝えしました。

ご利用者にとって、お元気になることはあたりまえに希求すべきことです。職員は同じ介護観を持つために尽力しており、「自分自身が受けると嫌な介護はやめよう」「自分の家族が入所したときに嫌と感じる介護はやめよう」といったあたりまえの、シンプルな理念に基づいた考え方で介護をしているこ

とを紹介しました。

続いてケアハウス高浜安立は、専門的に実践している「学習療法」や積極的に取り組んでいる「看取りケア」について報告しました。

お元氣になっていただくために推進している「学習療法」とともに全国的に見ても珍しい「ケアハウスでの看取り対応」など、ご利用者の希望を優先したケアを実践している姿に対し、見学の皆さまから多くの労いの言葉をいただきました。

施設見学においては、昭和20年代を感じる佇まいを施設のいたるところに再現している高浜安立荘から、昭和30年代をイメージした風景を再現しているケアハウス高浜安立へと足を進めていきました。両施設を見学したことにより、時代のつながりを感じていただけたのではないのでしょうか。特にケアハウス高浜安立においては、昭和の佇まいのネーミングにも手法を凝らしており、2階食堂は「しあわせ」、1階に「慈悲書店」、6階に「おもちゃのかんにん」と「マコトデンキ」といった聞き覚えのある名前に

思わず笑みがこぼれている姿が印象的でした。

「何だか昔を思い出したようだ」「子どものころはこうだったのよ」「この道具はこうやって使ったわ」など、見学を通して昔使っていた品々にふれることにより、しっかり脳が活性化された様子で、あちらこちらで弾んだ声が聞かれました。

昔懐かしい生活用具などを用いて、かつて自分が経験したことを楽しみながら語り合うことで記憶を引き出す回想法は、認知症や閉じこもりの予防及び治療につながるとされ、薬を使わない非薬物療法の一つとして注目を集めています。ほんのひと時でも楽しい時間を共有できたことをうれしく思いました。施設見学の後は、豊川支院へ向かわれるとうかがい、バイタリティあふれる皆さんに逆に力をいただきました。

「昭和」に浸りたいと感じた時には、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

特別養護老人ホーム・高浜安立荘 荘長 中村範親

福祉の ひろば

児童養護施設の現場から

「親子関係を再び取り戻すために……」

児童養護施設から退所する場合、高等学校卒業後に就職や進学を通じて自立（自活）していただくだけでなく、親元へ引き取られていくこともあります。前者の場合、勤務先にある寮などでの住み込み、自身で収入を得ながら賃貸住宅で生活することとなります。後者の場合、父母又は祖父母など特定の親族（大人）とともに暮らし始めることとなります。ここでは、親子関係を再び取り戻した経緯から、日常的な親子関係を考えます。

―施設職員からの働きかけ―

「母親から日常的な養育で妹に差をつけられるために家に帰りたくない」と、小学校の担任を通じ、児童相談所（子どもが施設へ入所するかどうかを決める行政機関）を経由して児童養護施設に入所したB君。

両親は言い分を聴いてもらえなかった児童相談所に強い拒否感を示したため、施設職員が家族関係を調整することとなりました。

母親と父親それぞれに分けて面接すると、見えてきた家族関係がありました。B君の幼い頃から家庭を顧みず交際する女性がいた父親と、父親に子育ての相談が全くできず一人で三人の子ども（兄・B君・妹）を育ててきた母親……。

その苦労をねぎらい寄り添っていくことで、母親は自分自身を振り返ることができるようになり、施設職員との間に信頼関係も形成されていきました。

―子ども自身の思い―

B君とは施設生活の中で関わるうちに、〝具合が悪い時は家ではどうしていたの？〟その時はどの

ように感じたの？」妹のことはうらやましかった？」等と話を聴き広げながら思いを引き出していきました。そのうち、「イライラした時にモノを盗るとスツキリする」「叱られた後は盗りたくなる」とB君の思いが語られました。そして、悪いことをしていると理解しているのに、盗ってしまうのは、根底に「寂しさ」があることに気づかされました。そのため、ベッドメイクや居室整備、花を飾るなど快適な居住空間を職員が提供することで、気持ち良く生活ができ、B君の中で整理整頓や掃除することの意識が芽生えていきました。年少児が発する言葉を「かわい」って意図的に共感する場面を設定したり、疲れているときに回復力が高まる料理を出したりと、周囲の大人が心配している「気遣っている」ということをB君が理解できるよう支援し、関係形成に努めました。

一方、母親とは面接を始めて1年半が経過し、虐待ではないが「妹との差を」そのように感じ取らせってしまったこと」に対する謝罪が自発的に述べられるようになりました。次第に、家庭復帰をゴール設定することが可能になり、計画の進捗状況を児童相談所へ定期的に提出し、連携を図っていきました。

そして、施設内での面会がスタートして3年が経過した高校3年生の夏に、家庭への復帰となりました。

— 親子関係再構築の重要性 —

B君にとっては、施設職員による育て直しにより、少しずつ獲得されていった信頼感や自尊心だけでは不十分であり、自身の生い立ちや過去の思い込み（自分のせい・自分が悪い；等）を修正した上で、主体的に親との関係を捉え直すことが必要でした。こうしたことによって、生まれてから今までの「人生」が連続していること、親（家族）と肯定的につながっていること等、自己を肯定的に眺めることにつながります。親自身も、子どもに加えた不適切な行動の責任を認め、子どもを大切に思っていることを伝えることができれば、子どもは「自分は親に愛されている大事な存在だ」と感じる事ができます。また、親自身の養育姿勢や行動が子どもに沿った適切なものに改善されれば、現実的なつながりの中で、かけがえのない家族と一緒に暮らすことができますし、より一層、自己肯定感を育んでいくことができますようにになります。

*参考：厚生労働省HP

追悼展示「初代学園長 鈴木宗音先生」開催

〓 日本福祉大学 美浜キャンパス・50周年記念館

毎年4月、学園では「開学記念式典」を執り行います。名古屋
市から知多半島美浜町への大学と付属高校の総合移転（1983
年4月）は、「第二の開学」にあたりと位置づけられ、毎年開催
し今年で35回目となりました。

この「第二の開学」時の理事長・学長で、初代学園長鈴木宗音
先生の七回忌に当たる今年、「三徳開教百年・顕修院日達上人
第七回忌協賛事業」として、『追悼展示「学校法人日本福祉大学
初代学園長 鈴木宗音先生」』を、美浜キャンパス・50周年記念
館で開催いたしました。

学園創立者・鈴木修学先生の後を継がれて、1962年にご就
任されて以降の学園報や新聞記事に残された宗音先生の資料を整
理し、展示をいたしました。

その足跡をたどり、当時語られている言葉にふれて、単科大学
からふくしの総合大学へと発展してきた本学園の激動の歴史を実
感することができ、大変貴重な機会となりました。主だった学園
の出来事を、展示資料に即してご紹介いたします。

宗音先生がご就任されて最初の大きな事業は、まず、1963



写真提供・日本福祉大学

年の創立10周年の記念事業です。その際に建学の精神をふまえた教育標語『万人の福祉のために 真実と慈愛と献身を』が定められ、校歌も作られました。その後1969年、大学院社会福祉学研究所が設置されました。「社会福祉学」を冠した日本初の大学院です。

創立20周年（1973年）の際には、経済学部の開設備にふれられ、単科大学から複数学部を持つ大学をめざすことが語られています。現在8学部を持つに至る、最初の大きな一歩だったことがわかります。1976年「社会福祉を理解する経済人の育成」を掲げて、経済学部が誕生します。

1977年に、本学が日本で初めて車いすの学生を受け入れた際の新聞インタビュー記事には「パラリンピックもめざして」という言葉があり、障害学生の受け入れに際し、受け入れの際の厳しい現実に留まらず、先の展望を語られていることが大変印象的です。

総合移転を前にした1983年2月には「30年をふりかえって」として、次のように語られています。『いま我等は建学の理念を再度確認し、新大学創造

に出発する。願わくは識浪荒れ、妄雲おおうことがあろうとも、なお光明を求むる者の燈台として、我等の大学が美浜の地にいちだんと光芒を放たんことを』

美浜キャンパス誕生直前の言葉にふれて、「第二の開学」という位置づけが、深く理解できました。

その後、現在の日本福祉大学中央福祉専門学校（1989年）半田キャンパス開設（1995年）など、現在の学園の原型が次々と作られていきます。

そういった節目に、建学の精神と学園創立時のこととを、繰り返し語られています。

私も「建学の精神」はこれまでも何度も読んでいますが、今回学園の歴史と宗音先生の残された言葉を年代ごとに追って、改めてどの時代においても「建学の精神」が全く同じ輝きを発していることに、深く感動を覚えました。

さて、こうして後を託された私達は、今の仕事から何を未来の人々へ残し、引き継いでいくべきなのかと、日々の忙しさに紛れながらも思いを新たにしています。

理事長・学長室 座光寺 美砂子

幸せの種まきⅡ 一人が一人を

法華経を如説修行していくと、
良い言葉を使えるようになり

ます。

人の悪口などは言わなくなり、人を元気づけ、
喜ばせる言葉が自由に使えるようになります。

大乗山 法音寺

編集後記

御開山上人は、仏さまの教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を発刊されました。当時の仏教界では革命的な取り組みと言えます。

以前、日蓮聖人ゆかりの寺を訪れた折、御開山上人を知ることができ、懐かしそうに当時を振り返り、「鈴木上人（御開山上人）は本当にすばらしい方でした。たくさん困っている人達を救ってね。それと、鈴木上人といえは漫画ですね。全国の僧侶の多くは鈴木上人の漫画を読んで育ったんですよ」とお話しくださいました。法音寺に連なる一人として本当にうれしく誇らしい気持ちになったものです。御開山上人の漫画は今も多くの寺院で販売されています。

さて、読者の皆さまにお知らせです。

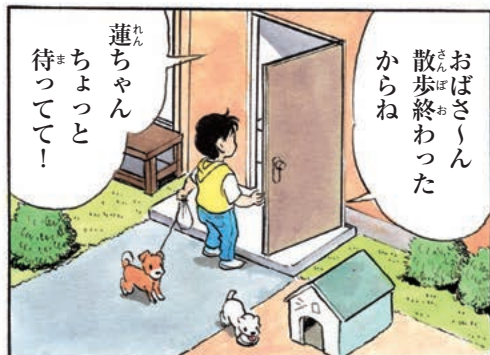
多くの読者に愛読されている巻末の漫画『ひまわり』が、このたび単行本になりました！（参照P 73）

いじめが社会問題になっている現代、蓮君のように困っているお友達に寄り添ってあげられる優しい子になってほしい。「この線を越えたら、悲しむ人がいる」ということに気づく大人に成長してほしい。

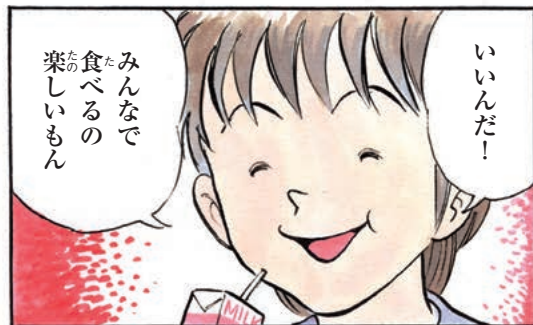
子ども達にとって漫画『ひまわり』を読むことが、その後の人生で幸せな人間関係を育む種となりますように…との願いを込めて。

おすそわけ

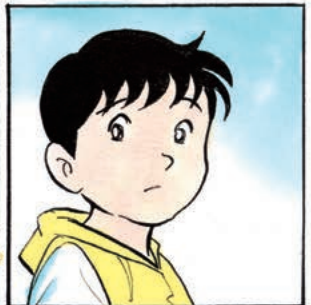
竹中 淳

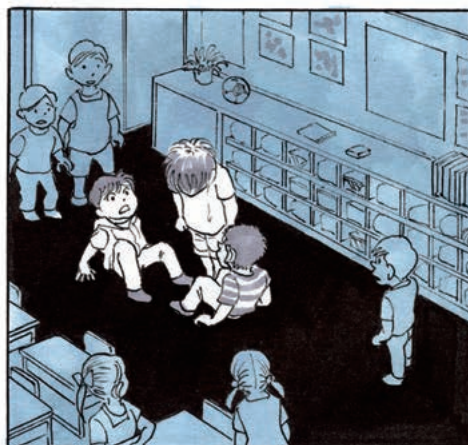
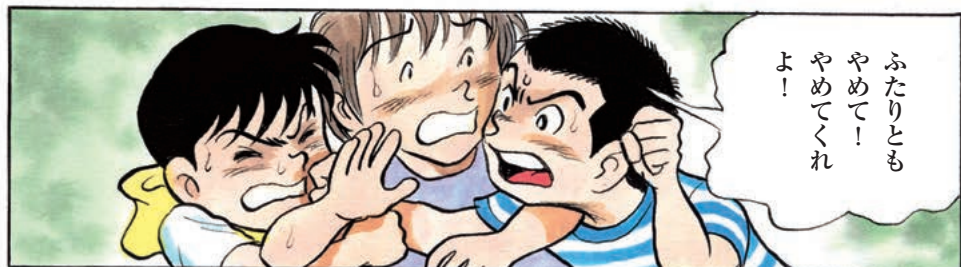
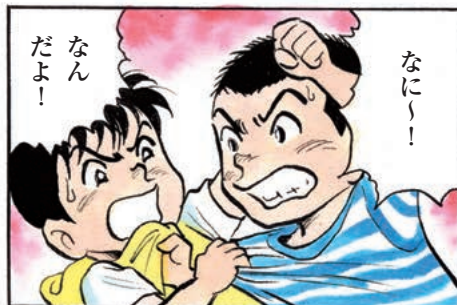
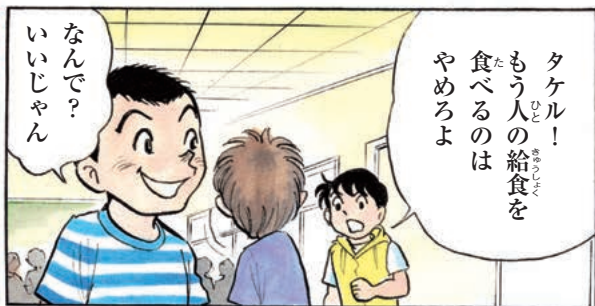














ボクんちの親 共働きで
帰りがおそくてね
夕飯はいつも
ボク一人さ
公園でお弁当を
食べてたの見ただろ
あれは夕飯なんだ

ボク 父さんや母さんを
悪くいつてるんじゃないよ



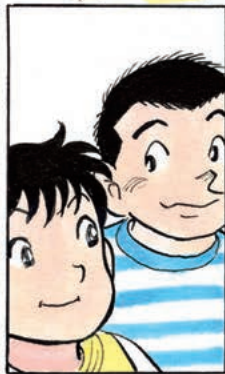
父さんはやさしいし
母さんは夜遅くまで仕事
してても朝はちゃんと
ボクを送り出してくれる
しね

でもやつぱり
一人で食べるのは
味けなくて…



でも 学校の給食って
大勢でにぎやかに
食べられて
本当に
楽しいんだ

タケルくんにも
給食を分けてあげたら
すごく喜んで
おいしそうに食べて
くれてボク…
とてもうれしかった



だから
タケルくんは
悪くないんだ
怒らないで
くれよ



なに？

ホラ見て
父さんが
釣って
きたの



夕飯食べて
いかない？



あ
帰ってきた



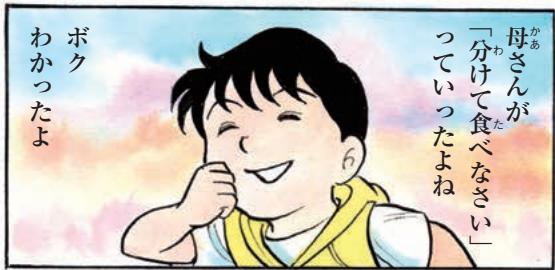
いいわよ

ねえ母さん
もう一人
友達よんで
いい？



こんなに
食べられる
かな…

うわあ
すご
い!!



ボク
わかったよ

母さんが
「分けて食べなさい」
っていったよね



うん 公園に
いるといいけど

布施か？



おーい
布施くん



あ
いた!!

みんなで分けて
食べたら楽しくて
おいしいからだよね

おしまい

書籍のご紹介

法音寺を
知りたい方へ



戦後、法音寺を開山した鈴木修学上人は、仏教の教えを漫画で伝えようと多くの仏教漫画を作りました。当時の仏教界では革命的な取り組みでした。現在、全国の日蓮宗寺院で法音寺の仏教漫画が販売されています。

■まんが

『法音寺物語上・中・下』

法音寺広報委員会 企画

中央法規出版刊

B5版 平均九六頁総カラゝ

定価各巻一、〇〇〇円(税別)

法音寺の教えを
学びたい方へ



現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三四五頁

定価八〇〇円(税込)



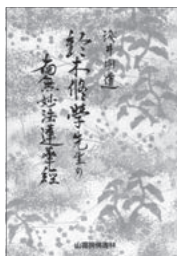
続現代生活の指針

鈴木修学著

四六判/三五二頁

定価八〇〇円(税込)

仏教を
学びたい方へ



鈴木修学先生の
南無妙法蓮華経

浅井圓道著

山喜房佛書林刊

四六判/二百二頁

定価一、八一四円(税込)



妙法蓮華経略義

鈴木修学著

青山書院刊

A5版/八六三頁

定価六、〇〇〇円(税込)

福祉を
学びたい方へ



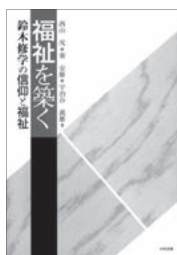
日本の福祉を築いた
お坊さん

星野貞一郎著

中央法規出版刊

A6版/一六八頁

定価八六四円(税込)



福祉を築く

西山茂・秦安雄／

宇治谷義雄著

中央法規出版刊

A5版/二二三頁

定価三、六二八円(税込)



知恩報恩

「ありがとう」と言う私から
「ありがとう」と言われる私に

写真・法音寺大本堂
《山首上人の大修行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭徳会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜安立荘
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成30年6月号・No.584・平成30年6月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社